

## 編集室から

今月21日は、金環日食です。太陽が全て隠れる皆既日食に比べ、月がやや地球に近い軌道をとるため、月の見かけの大きさが太陽より若干小さくなることで、まるで光り輝く指輪のように見えるため、この名が付いています。

今回は、日本列島の太平洋岸を中心線としてかなり広い範囲で見ることができます。東京・大阪・名古屋を始め、中心食線（日食帯の中心線）が南九州・紀伊半島南部・静岡・南関東などを通ります。中心食線付近では、図鑑さながらの真円リングが国内で観測できる、絶好のチャンスとなりそうなのです。

ただし問題は、その時刻。地域にもよりますが、概ね当日前7:30前後。ということは、日の出る「東よりやや北」から東の方角に建物や山など遮るものが無い場所を選ばないと、この天体ショーが「ちゃんと見られない」ということにもなりかねません。観察だけでなく、撮影を志す人にとってもロケーションは絶対です。

既に、日本航空では、早朝羽田を発つ遊覧フライトで、雲の上に出て当日の天候に左右されない観測・撮影機会を提供しようという商品も販売されています。

ご縁を頂き、土地勘ができていた遠州が中心食線になる今回のチャンス。マイカーで出かけて車中泊で「その一瞬」を狙いに行こうか思案中です。実は、本格的な日食の撮影には、強烈な日光を抑える専用のフィルターや望遠レンズなどの専用機材が必要です。後者は既にそれなりのものを持っていますが、ほぼ日食を撮るしか用の無いフィルターをわざわざ買わねばならない点が、当日の天候も併せて気懸かりです。

本州での金環日食は1883年以来。次の金環日食は、北海道で2030年、本州では2041年だそうです。ますますワンチャンスをどうするか。といった悩みは尽きません。（は）



このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2012/05  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167  
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217  
Fax 076-233-7375  
Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)



2012/05  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

## 泉 月



能登・七尾・青柏祭にて  
釘を使わず高さ12mにも及ぶ  
でか山  
by hama

## 寄稿『ビジネスと非営利活動』

いとう税理士事務所 税理士 伊藤 智宜

私は普段、税理士として主に中小企業を対象にお仕事をさせていただいております。それに加えて、最近はNPOや一般社団法人といった非営利活動を行う法人の活動に参加したり、お仕事をいただいたりということが増えていきます。私はこれまで、このような活動に接する機会がなく、わからないことも多かったのですが、参加されている方々が皆やりがいを感じ、楽しそうに活動されている様子を見て、興味を持ち始めました。そして、今ではこのような活動に参加することはビジネスパーソンや経営者にとっても、プラスになる面がたくさんあるのではないかと考えています。

まず、非営利活動に参加されている方々はビジネスパーソンとしても優秀な方や社会的地位のある方が多いように感じます。そして、無償の善意で、「社会貢献がしたい」「人の役に立ちたい」という思いが集まってくるため、よい雰囲気です。楽しく活動をされています。そのような方々と一緒に活動することで、結果的に良い人脈ができていくわけです。また、普段の仕事や生活で接する機会のない様々な方々と知りあうチャンスでもあります。私自身もこのような形で大いに刺激を受けています。

また、ある程度ビジネスで成功した方がこのような活動に参加することは、精神的に成長するという面で有用です。事業を始めた頃は、「いい生活がしたい」「女性にもてたい」といった欲望がモチベーションになります。ある程度まで成功すると欲望だけでは続かず、考え方を変える必要に迫られます。そのような時にこのような活動に参加することは考え方を変えるきっかけになると思います。

また、仕事、家庭とは違う「第三の場所」を確保するという点でも役に立ちます。私自身が自営業者であるため、仕事と家庭が一体になりがちということもあり、このような「第三の場所」を持つことは飽きずに長く仕事をしていくという意味で、非常に重要であると感じています。

最近では社会起業という言葉が出てきたりして、ちょっとしたブームになっていますが、このような活動が地に足をつけた持続的なものになるよう、私もできることでお手伝いできたらなと考えております。



【プロフィール】  
（いとう とものり）一九七六年石川県七尾市生まれ。二〇一〇年いとう税理士事務所開業。これまでに百件以上の個人事業・会社に関する得意分野は創業支援、事業再生など。

## 濱のつばやき 『不調』

先月の下旬、東京出張だった。

この時期、田植えの準備に何かと忙しく、直前の週末は日々の力仕事。その上、近隣集落の春祭りで親戚にお呼ばれに。些かハードな日程を押し出かけたせいかも知れない。出張の二日目に、突然激しい悪寒に襲われ、どうにも調子が悪くなってしまった。それでも、何とか居場所を見つけては少し休むと、取り敢えず復調する。極端に変動する体調を気遣いながらも、なんとか日程をこなしていた。

学生時代からの親友が、東京事務所兼単身赴任住居を栄転し、金沢で育ったこ息が大学進学で同居するという。出張中にそれらのお祝いを兼ねて、一杯。その時、体調は全く平静で、一瞬「あれは気のせいだったかな…」とさえ思っていた。

翌日の午前、ちょうど満開の桜が咲き誇る千鳥が淵公園で一休み。地面には花絨毯、水面には花いかだ、そして一陣の風で花吹雪…。桜に包まれてしばらく幸せ感に浸り、ぼーっと過ごしていた。

その日、午後後半がいけなかった。銀座での打ち合

わせの最中、再び激しい悪寒に襲われる事に。なんとか夜、帰途に着いたが、そのまま金沢で昏倒。数日間、床から出られない日を過ごした。

出先で、こういう目に遭うと感性が鋭敏になるようだ。黙して語らずとも、気遣いが伝わってくる友人たち。普段は、素晴らしい事をおっしゃっている方から受ける冷徹な印象…。

体調を崩してしまったのは、自己管理の不行き届きで、全く言い訳の様もないのだが、返って多くを学べた貴重な機会を頂いたような気がしている。

例年、木の芽時ですこぶる元気なのだが、今年は東京で会った方の中にも、その後体調を崩された方があると耳にした。戻ってから金沢で予定されていた会合も、主役の方が体調を崩され延期になってしまった。

皆様もくれぐれもお気をつけて頂きたい。そして、自身もつくづく心したいと想う。体調が思わしくない人は、敏感になっている。その時の言動に秘められた、ともすると自分でも気付かない奥底の本音が、うっかり相手に届いてしまうかもしれないということ。

体の不調は大抵の場合、いずれは治る。しかし、ご縁の不調は殆どの場合、取り返しが付かないものだから。



浮き草のごとく30 福井県立大学 地域経済研究所 江川 誠一  
『会社再建の当事者として(元経理部長の矜持)』

その日は経理のOB 2人と現役1人に囲まれ、いろいろな思いの詰まったお酒を飲んでた。この会を開こうと言い出したのが誰なのか、いやそれどころか、いつ集まったのかもよくは覚えていない<sup>1</sup>。でも彼女たちの涙を私ははっきりと覚えている。そしてそれは、前を向くときに少し過去を振り返って流す類いであったことも。

ただ一言、「明日の朝までに、とにかくやって」と彼女に何度言ったことだろうか。エキゾチックな顔立ちで、ビスコテックス<sup>2</sup>のワンピースがよく似合う元経理スタッフの彼女は、民事再生突入直前の在職時、経理の素人である私の要求を、嫌な顔一つせず完璧にこなした。徹夜が続き陰で泣いていたのを知っていたが、彼女が見せるパーフェクトスマイルに、私は鬼のような一言をあえて何の修飾語も付けずに言い続けた。この日「恨みましたよ」と言う崩れた笑顔に、胸のつかえが一気に下りた。

口座ロック時にその凄みを知らしめた元経理部長。この会社の経理をほぼ一人で作り上げ、また、常識的な方法では回らなくなっていた資金繰りを、その凄腕でクリアしてきたという強烈な自負が彼女にはあった。常にまっすぐ前を見据えるその目は、怖いものなんて何もないと主張していた。こういう事態を招き、また最後まで関われないという負い目を、彼女の矜持はいとも簡単に跳ね退けていると思っていた。ところがある日、粉飾決算の全てを説明し終えた後の深夜1時頃、「私、学歴コンプレックスがあるんだ」と、少し悪戯っぽく私に言う。そしてこの日は、珍しく視線を逸らしながら「江川さんに押しつけてしまって...」と、少し小さな声で繰り返し何度も言う。言い訳をせず、粉飾決算書類の作成を言外に強いた元社長を一切責めないことに、彼女の最後の矜持を見た。その時私は、この事態に関わりだした頃、彼女に「一度でも手を汚したものは、一生付いてまわるよ」と言ったことを激しく後悔した。

この2人の退職後、倒れかけた会社の経理事務を1人で背負うという重責に耐えられず、その後採用した3人の派遣社員はいずれも数週間ともたなかった。そんな時、ダイナミックな金の動きと綱渡りの資金繰りを面白いと言ってくれる人が現れた。この4人目の派遣社員が新しい戦友となり、この日この場に重要なピースとなって存在していた。私の部下である彼女が、元経理部長に言う。

「社員からの冷たい目が一番辛かったと思うし、途中でこの会社から離れざるを得なくなって、すごく悔しかったと思う」

この不器用だがストレートな一言で堰が切られた。張り詰め続けた日々が一段落し、悔しさ、負い目、感謝等これまで封じてきたお互いの思いが、この日ようやく素直に表せるようになった。先に退職した2人は新たな活躍の場を見つけ、派遣社員の彼女はその後に正社員として登用されたものの、最近になって違う道を選んだと聞いている<sup>3</sup>。ただただ、前を向いて欲しいと願うのみである。

1：調べてみたら再生計画認可直後の2006/3/28のことであった

2：<https://www.viscosquare.jp/onlineshop/index.do>

3：私は2010/9/30に退職。

『新しいプロモーションインフラができた!!』  
株式会社GARBAGE代表 川島 嘉浩

FaceBookの勢いはすごいですね。

世界で5億人超、日本ではすでに1000万人以上が登録しているらしいではないですか。それまでSNSサイトの代表だったmixiはユーザーが3000万人らしいですが、アクティブさで考えればすでにFaceBookの方に軍配は上がってますね。米ナスダック上場で創業者が得る資金も50億ドル超になるのでは、と全てが桁違いです。

そんなFaceBookを利用されている方も多いとは思いますが私もこのフィールドを使って2つの行動をしています。

まず一つは『友達探し』です。現在や過去の友人達とサイト上でも『友達』になって、情報交換やメッセージ機能を使って更なるコミュニケーション強化はもちろん、出身地域などから『未来の友達』探しに非常に有効活用させていただいています。

そしてもう一つは『企業のプロモーションインフラ』としての活用です。従来ですと伝えたい誰かに情報を届けるには「コスト」がかかりました。そしてその多くが「不特定多数」であり、そして「効果検証」が計りにくいものばかりでした。

しかしFaceBookの登場によって企業ページによって「無償」で、友達登録している「届けたいターゲット」にかつチェックイン機能等を使うことで「効果検証」が容易にできるようになりました。

これは、マーケターの立場からインターネットがこの世に登場して初めて「one-to-oneマーケティング」が実現すると身震いしました。今後日本だけでも数千万人の国民がFaceBookに登録するとなれば、これまでの「広告・SPメディア」の概念が変わることは火を見るより明らかです。

そして従来それで対価をもらってきた産業がなくなる日も現実味を帯びてきました。

これはほんと大変なことになるぞー!!

## 『富士の国から ~大魔神のたび~ 』

新潟・佐渡島のたび 2012/2 その2 静岡県職員 溝口 久

海岸沿いを走ること一時間弱、「カーブドッチワイナリー」を目指した。その途中に小さなワイナリーが目に入った。雪に埋もれ、果たして人がいるのかな、静けさの中にひっそり建っていた。建物は新しい、中に入っていくとオーナーらしき小柄な青年がいた。出された名刺にはワイナリー名「ドメヌ・ショオ」と生命共存科学博士 小林英雄とあった。話を聞くと「筑波大学在学中にオーストラリアでワイナリーの畑仕事、カレッジではワインサービングを学んだ。帰国後に博士号を取得し、コンサルタント会社に勤務の後、カーブドッチワイナリーのワイナリー経営塾で学び、ここ角田浜で起業した。ここは畑の水はけがずばぬけて良いところ、荒れ放題のもと観光ぶどう園を借りて開墾と土壌改良をした。購入した建物用地750坪は松林で、これを自力で伐採した。借り入れ含めて5000万円の資金は欧州からの苗木とステンレスタンク、木の樽を購入しておしまい。赤のカベルネ・ソービニヨンと白のシャルドネの計1000本の苗木を植えた。」ついでに父上は伊豆に住んでいるとのことだった。

そして、昨年9月にオープン。夫婦二人で畑とワインづくりに向かい合っている。現在、ワインクラブ“K o - L a b o”会員を募集中。ワインを年2回、イベント参加、ワインの割引販売、試飲無料の特典がついている。一緒に行った知久さんは早速会員になった、若い志を応援するために。

次に伺った「カーブドッチワイナリー」はすごい施設になっていた。かれこれ10年ほど前に岩室温泉の和田さんに連れて行ってもらったときにはワイナリー、レストラン、売店と緑ある駐車場が印象的だったが、今や滞在型リゾートとして整えられていた。ホテルに温泉そして整体・スパが加えられ、ラグジュアリースパ、ワイナリー巡り宿泊、カブドッチのワインを心ゆくまでのフリードリンク宿泊など用意され高品質なリゾートとして成長していた。是非、ゆるりと滞在してみたいものだ、フリードリンク+スパスティでね。

翌朝、佐渡島に向かう前に「にいがた食の陣」を見た。新潟の豊富な食材を全国に広げるべく旗揚げされた、今年20回目を迎える食の一大イベント。12月から3月がそのフェアの期間だ。中でも2/11,12は「当日座」と称して商店街、駅前、新潟ふるさと村の市内5会場に食のテントが並ぶ。

今年のテーマは『ご当地焼そば』

糸魚川ブラック焼きそば、さといも麺の五泉焼きそば、レッド焼きそば、グリーン焼きそば、ここには富士宮焼きそばの出番はない。

他に寒ブリ鍋、のど黒飯、ブリカツ丼、くじら汁、、、口にすることがないものが並ぶ。朝食をホテルでたっぷり食べたものにとっては、見るだけが続いた。11時開始前に、すでに多くの人で賑わっていた。B1グランプリもとんでもなく多くの人がある。やはり食か！新潟の冬の誘客は『食』一本勝負。わかりやすくいい。

さて、にいがた食の陣「当日座」の会場を後に新潟港に向かった。佐渡島に向かうジェットfoilが出た。これだと65分、フェリーは2時間30分かかる。海が荒れるか否かだけでなく、経済欠航といってお客が少ないと間引いてしまうことがあるとのこと。帰りは残念なことにフェリーになってしまった。(続く)

